

令和3年産水稻の生育状況と今後の対策

(水稻生育診断技術確立調査－5号：早生・中生最高分けつ期調査)

農林総合研究センター
令和3年6月23日調査

気象経過

< 平年対比 >

【平均気温】

- ・ 6月第3半旬は、金沢、輪島ともはかなり高い（平年差：金沢+2.3℃、輪島+1.8℃）
- ・ 6月第4半旬は、金沢、輪島ともに平年並（平年差：金沢+0.1℃、輪島-0.1℃）

【日照時間】

- ・ 6月第3半旬は、金沢は並、輪島はかなり少ない（平年比：金沢 96%、輪島 39%）
- ・ 6月第4半旬は、金沢、輪島ともかなり少ない（平年比：金沢 67%、輪島 20%）

【降水量】

- ・ 6月第3半旬は、金沢はかなり少なく、輪島はかなり多い（平年比：金沢 43%、輪島 319%）
- ・ 6月第4半旬は、金沢はかなり多く、輪島はやや多い（平年比：金沢 220%、輪島 127%）

【1ヶ月予報】

6月17日発表の1か月予報（6月19日～7月18日）では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率40%です。日照時間は、平年並の確率40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並の確率40%です。

生育概況等

【本田の生育】

1. 予想出穂期（早生品種）

早生品種ゆめみづほで幼穂が確認されている（0.1～1mm程度）。

ゆめみづほの出穂期は加賀地域で7月18日頃と平年に比べ1日程度早く、前年に比べ並～2日程度遅く、能登地域（羽咋～中能登）では7月23日頃と平年並で、前年に比べ3日程度遅いと予想される。

また、能登地域（奥能登～珠洲）の能登ひかりの出穂期は、7月24日頃と平年及び前年並と予想される。

2. 草丈

ゆめみづほは、平年比104%（加賀地域100%、能登地域113%）で加賀地区は並、能登地区は長い。

コシヒカリは、平年比101%（加賀地域101%、能登地域102%）で並。

3. m²当たり茎数

ゆめみづほは、平年比101%（加賀地域100%、能登地域105%）と平年並で、前年に比べ加賀地区は並、能登地区は多く、前年より遅く最高分けつ期を迎えると予想される。

コシヒカリは、平年比92%（加賀地域98%、能登地域84%）と平年並及び前年並で、能登地区はやや少なく、前年に比べやや少ない。

m²当たり茎数（平年、前年）及び株当たり茎数

品種	地域	平年	前年	平年比	前年比	株当たり
コシヒカリ	県平均	474本	438本	92%	94%	26.7本/株
	加賀	509本	498本	98%	104%	28.7本/株
	能登	424本	400本	84%	94%	23.9本/株
ゆめみづほ	県平均	573本	567本	101%	105%	31.5本/株
	加賀	582本	582本	100%	100%	31.9本/株
	能登	557本	506本	105%	118%	30.7本/株

4. 葉齢

コシヒカリは平年に比べ-0.1葉（加賀地域±0.1葉、能登地域-0.3葉）となっており、葉齢展開からみた生育の遅速は、平年並～平年に比べて1日程度遅いと見込まれる。

【病害虫の発生状況】

本田でのいもち病の発生は確認されておらず、今後の発生は平年並と予想されている。

現在の雑草地における斑点米カメムシ類の発生は平年並であるが、今後の斑点米カメムシ類の発生はやや多と予想されている。

[病害虫発生病害虫発生予報第3号（令和3年6月17日付）参照]

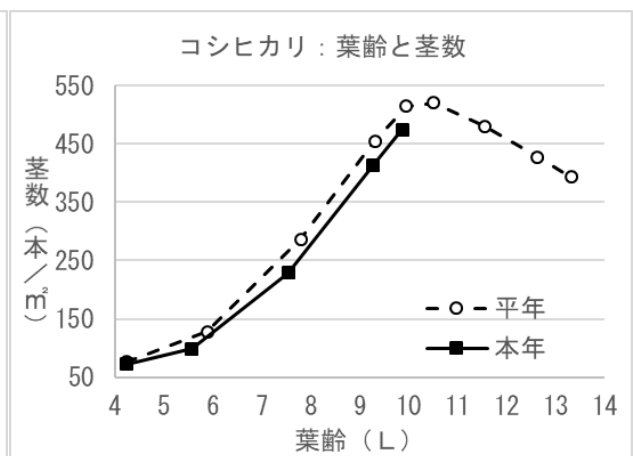
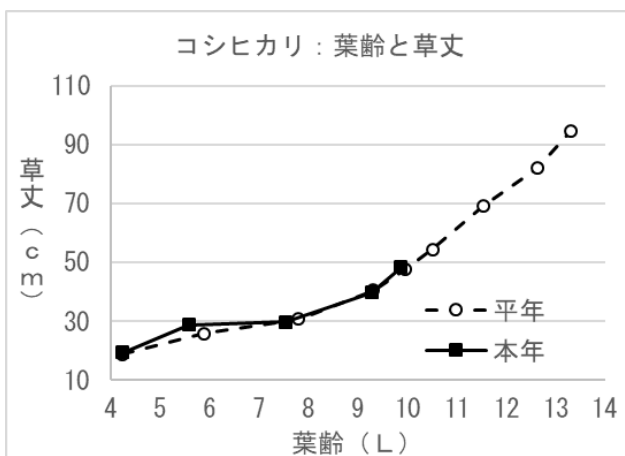
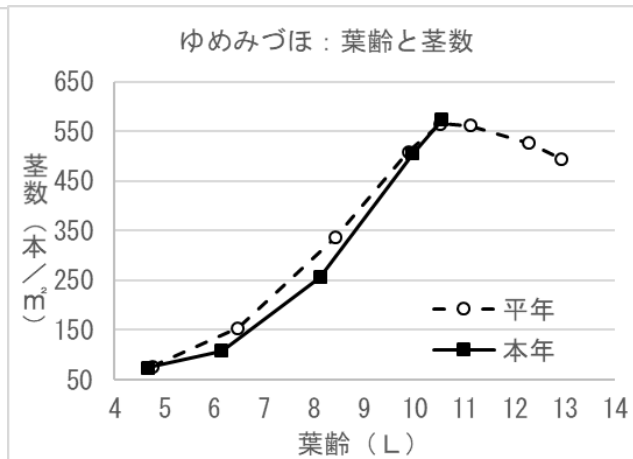
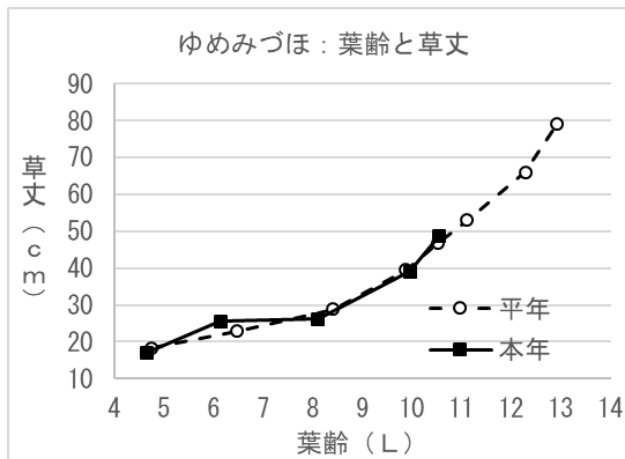
当面の対策

1. 早生は中干しを終了し、以後、間断通水による飽水管理とし、根の機能低下防止に努める。
2. 中干しの継続
 - (1) **中生のコシヒカリ、晩生のひやくまん穀**については、稲体の健全化、弱勢分けつの発生抑制と有効茎歩合の向上を図るため幼穂形成期まで中干しを確実に継続し、穂肥を施用できる稲体へ誘導する。
 - ① コシヒカリ：7月5日頃まで中干しを継続する
 - ② ひやくまん穀：7月15日頃まで中干しを継続する
 - (2) 用水の不足が心配される地域では、漏水を防止し、計画的な水利用に努めるとともに、強い中干しは避け、飽水状態を保つ水管理を実施する。
 - (3) 圃場内への効率的な入水を実施するため、溝切りを行なう。なお、溝切り間隔は圃場条件に応じ3～5mとする。
3. 幼穂形成期（出穂前25～15日）に18℃未満の最低気温が予想される場合は、水深10cm以上の深水管理とし、不稔粒の発生防止に努める。
○早生品種の耐冷性：五百万石（弱）、ゆめみづほ（中）、能登ひかり（中）
4. 早生の1回目の穂肥は、幼穂長で適期（ゆめみづほ：1～2mm出穂23日前、能登ひかり：2～3mm出穂20日前）を確認し、遅れずに施用する。
ただし、茎数が多く、葉色が濃いほ場（葉色板4.0を超えるほ場）では、1回目の穂肥を減量して施用し、2回目は出穂7～10日前に基準量を施用する。
5. 稲体の健全化を図るため、ケイ酸質資材を直ちに施用する。
6. 病害虫防除
 - (1) いもち病の発生はやや多と予想されており、一旦発生すると急速に進展する恐れがある。発生状況の把握に努め、発病が認められたら直ちに防除する。
いもち病の箱施薬が行われていないほ場、いもち病の常発地及び葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。
 - (2) 白葉枯病の防除については、過去に多発した地域で予防剤を箱施薬していない場合は、予防剤を6月20～30日に散布する。
大雨により冠・浸水したほ場では、できるだけ早くほ場の排水に努める。
 - (3) **紋枯病については、前年発生した圃場、茎数の多いほ場では多発する可能性があるため防除を実施する。**
薬剤によって防除適期が異なるので、使用薬剤の基準に従う。

- (4) 斑点米カメムシ類の防除については、発生密度を下げるため、生息場所である農道、畦畔、休耕田および遊休地等の除草を徹底する。
除草を集落など地域全体で一斉に実施すると密度低下の効果が高い。
なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。
- (5) 晩生のひやくまん穀の防除適期は出穂期を予想し、中生のコシヒカリと異なることに留意して、基幹防除を実施する。
7. 今後は高温傾向が続くと予報されており、いずれの品種も出穂期が早まり、更に刈取適期も早まることも予想される。
品質低下を防止し、適期に刈取作業を終了できるように共同乾燥施設の稼働計画等の作成を行うこと。

<参考：草丈の伸長および茎数の増加傾向>

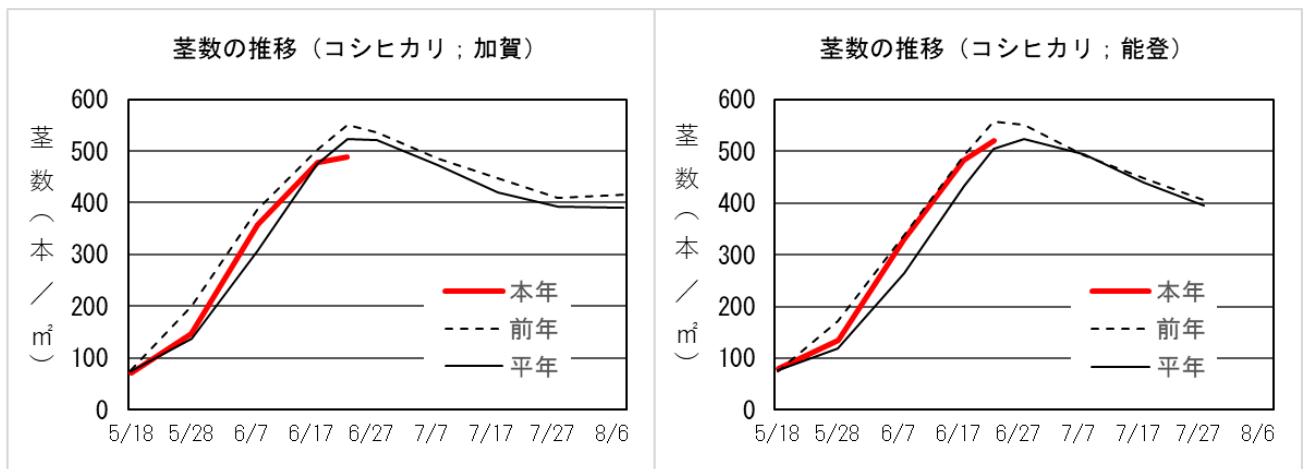
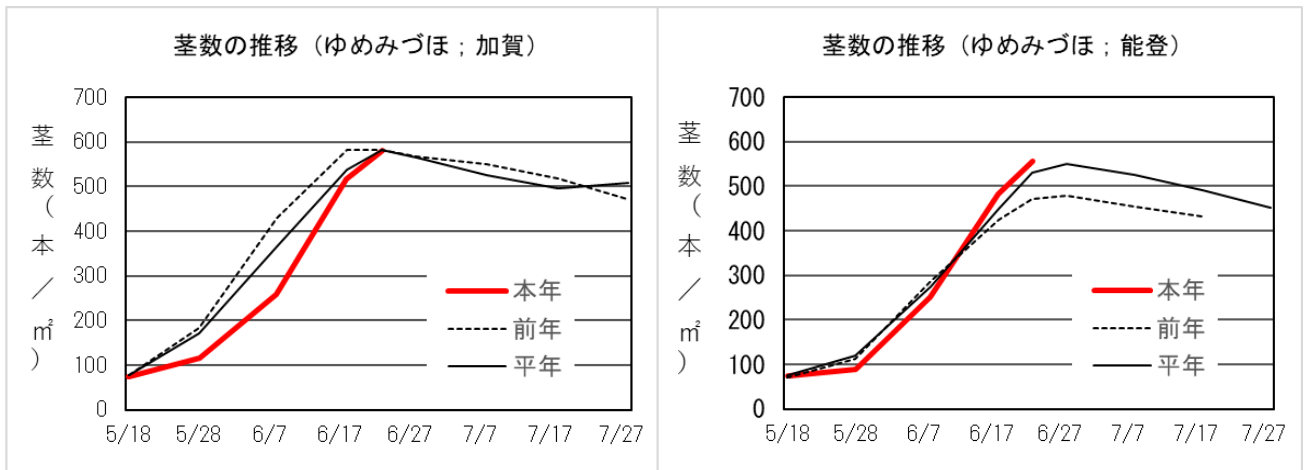
- ・葉齢を基に草丈の伸長および茎数の増加を平年と比較すると、
 ゆめみづほ、コシヒカリのいずれも草丈は葉齢展開に応じた長さとなっているが、茎数はゆめみづほでは葉齢展開に見合った本数となっている一方で、コシヒカリはやや少ない傾向となっている。



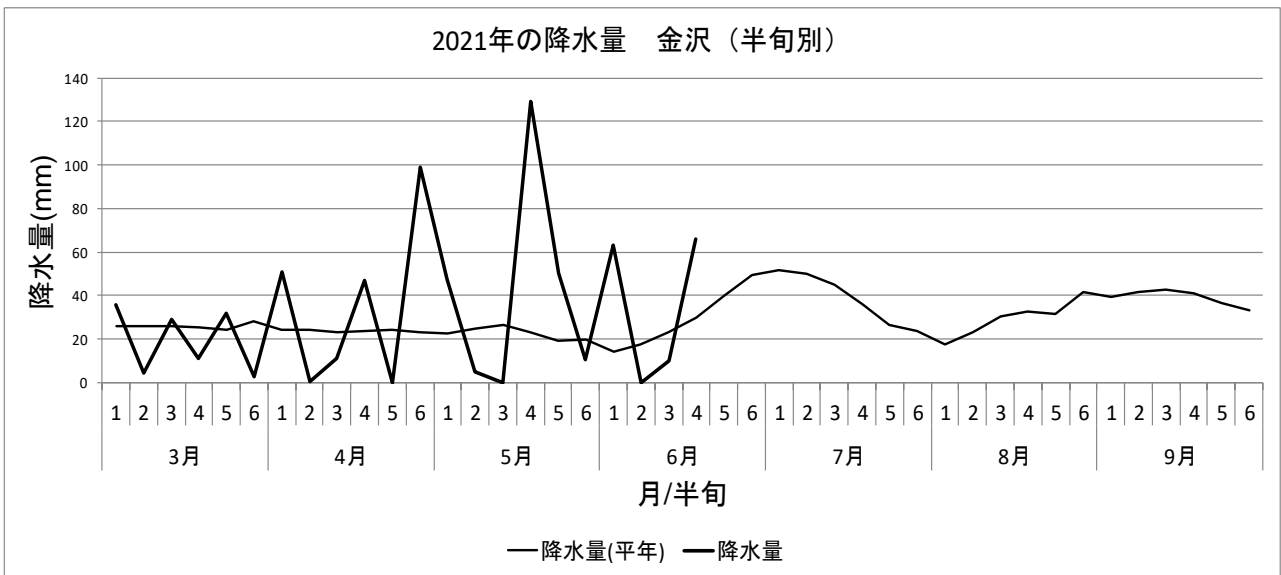
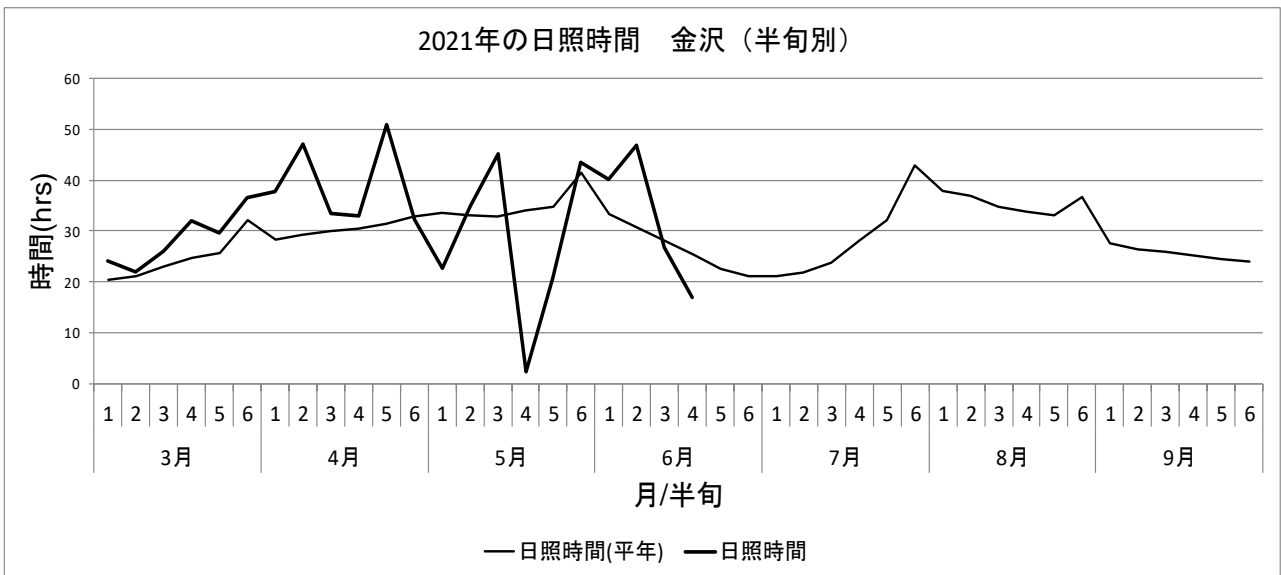
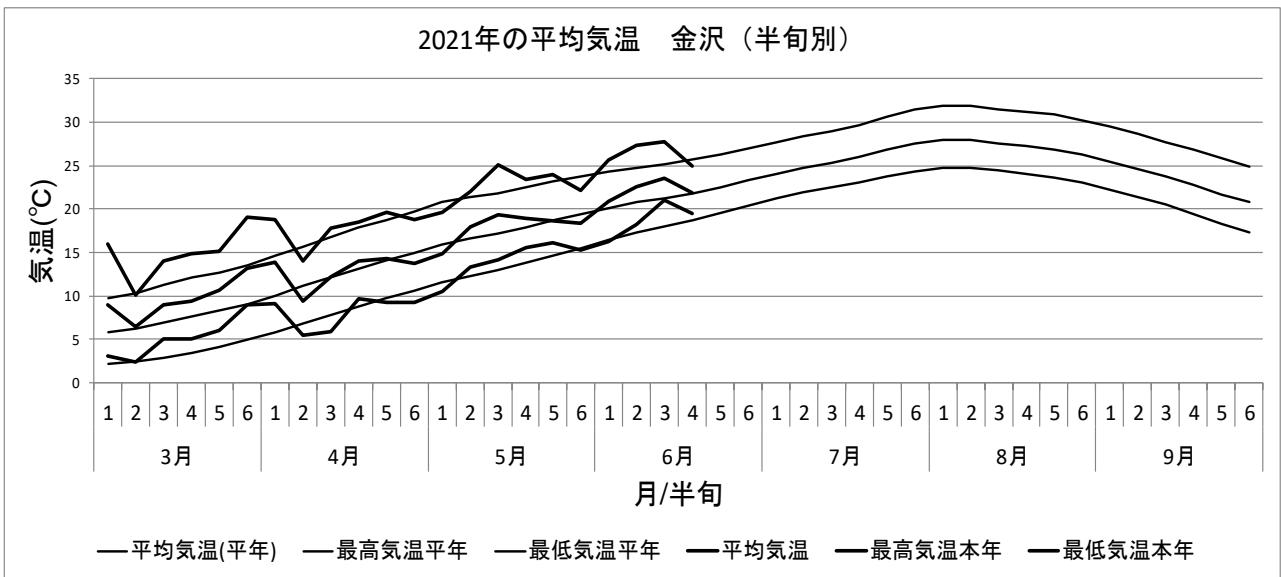
- ・また、調査日を基にゆめみづほ、コシヒカリの茎数増加を平年及び前年と比較すると、ゆめみづほは、加賀地区で平年並及び前年並で能登地区は平年並～前年に比べ多い。
- ・コシヒカリは、加賀地区で平年及び前年よりやや少なく、能登地区は平年並で前年より少なくなっている。

＜最高分げつ期＞

- (1) ゆめみづほでは、加賀地域は平年～やや遅く、能登地域は平年並で前年に比べ遅い見込み。
- (2) コシヒカリでは、加賀地域、能登地域のいずれも平年並で前年より遅い見込みである。

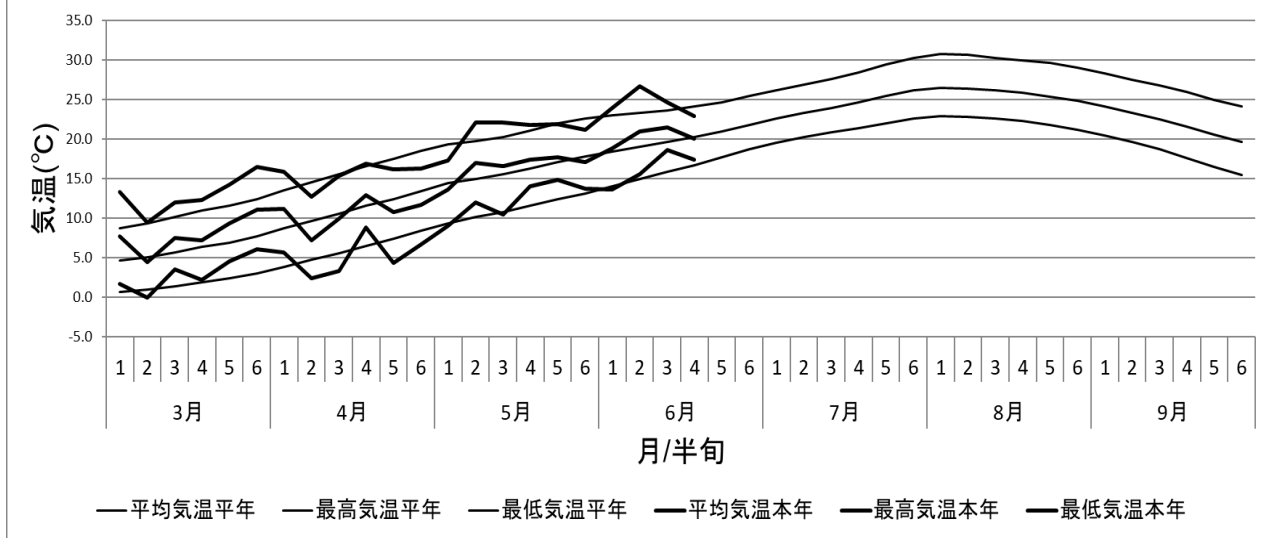


気象経過グラフ (金沢气象台)

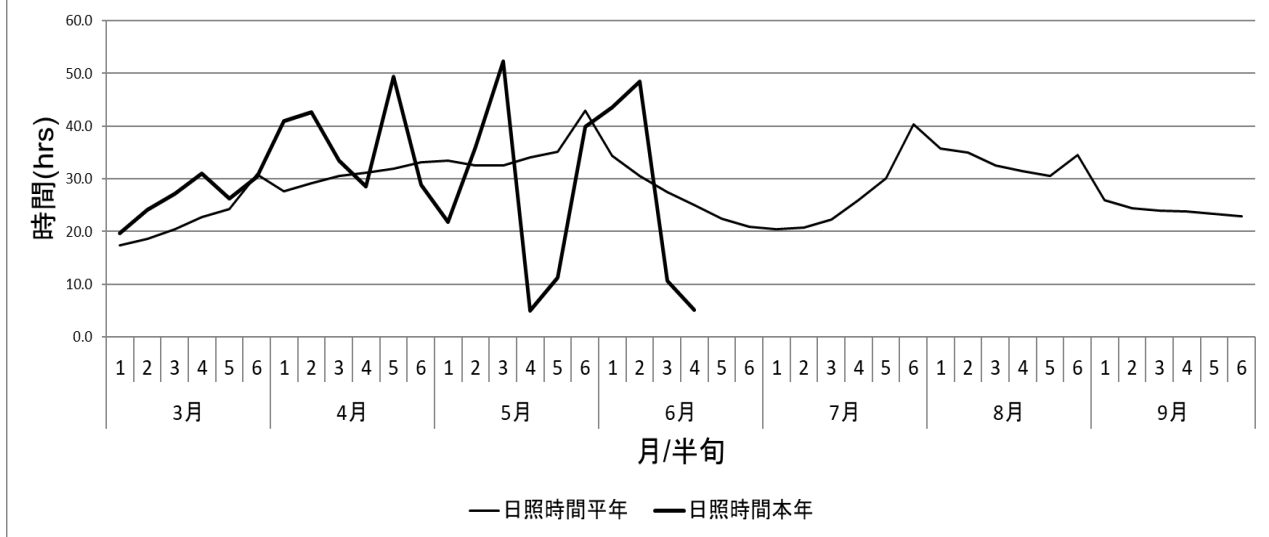


気象経過グラフ (金沢気象台)

2021年の平均気温 輪島(半旬別)



2021年の日照時間 輪島(半旬別)



2021年の降水量 輪島(半旬別)

